

熊本県の平家落人伝説

— 国語教育の一助として —

武田昌憲

はじめに

国語教育の中で、特に日本古典文学作品は遠い過去のものだと思われがち—自分とはかけはなれた空間という先入観で遠ざけられがちであるが、地元の伝説を活かして今に伝わる先祖からの思いをかみしめてみたいものである。

ここに触れる『平家物語』を核とする、いわゆる平家伝説は、『平家物語』に登場する平家方の人々だけではなく、相手側の人たちの伝説も含んでいる。いわゆる、源義経・弁慶・那須与一・多田蔵人等々も落人なのである。

義経主従の伝説は、平家滅亡後の逃亡生活や、平泉で滅ぼされた事件後の生存説に至るまで、主に、東北・北海道での伝説が多いとされてきたが、九州にも多くの伝説が生じてることに驚きを禁じ得ない。

なぜ熊本に平家伝説が多いか。

そもそも肥後国は西日本でも屈指・唯一の大国であり（他の国は上中小に格付け。肥後だけはその上の大の格付け）。また九州（又は西国で）の中央にあり、もともと豊かな国である。当然西国支配を目指す平家は肥後国を重要な支配権としてみている。肥後国の統治には平家関係者が多くいたのである。

肥後国はその山深さと、複雑な海岸線を持つ天草の島々、奥深いところが多いので、平家の落人のみならず、いろいろな人々が多く渡ってきた。その多くは血筋・出自を誇り、単なる田舎暮らしの民ではないことを伝説として代々伝えていく。

とにかく何とか生きていける実りの多い国なのである。これが平家残党や落人・南朝・石田三成（関ヶ原合戦）残党・豊臣方残党（大阪城落城）・加藤

家旧家臣・福島家旧家臣・キリシタン等々色々な人を熊本に引き付ける要因の一つなのである。

もともと誇り高い人・身分の高い人たちなので、誇り（文化・伝統）を持っている。反面、肥後の国は独立意識の高い人たちが多くいせいか、昔から受け入れやすいがまとめ難い土地柄ともいえる。

県内の平家伝説

今、熊本県内の主な観光地としての平家伝説を取り上げてみる。^{注1}

○御船町滝尾玉虫に玉虫御前伝説がある。

那須与一の扇の的を射た時に的の近くに立っていた美女（『源平盛衰記』では玉虫の前・玉虫御前）。

熊本では彼女の出身が御船町であり、平家滅亡後に故郷に戻り、玉虫寺を作り平家の供養をしたという。父親は横野大掾。現在、玉虫観音堂、玉虫御前の墓がある。

近くに平家伝説の五家荘、隣接した宮崎県に同じく平家伝説の椎葉村（鶴富姫伝説あり）が

ある。

また、五家荘に鬼山御前と名を変えた伝説がある。

○五木村に平家の落人 山うに豆腐を作り始めた。

○八代市泉町に五家荘平家の里あり。

玉虫御前が鬼山御前と名を変えて平家の人とひっそりと住んでいたところを、平家残党討伐に来た那須与一の子と恋仲になる伝説。そのおかげで源氏の討伐を免れる。

平家伝説館、能舞台など新設。

平家の里として大々的に宣伝。全国的に有名。但し交通不便。

○同八代市泉町久連子（くれこ）に久連子古代踊りあり。平家の末裔が遠い都を偲んで踊ったという。国選択無形文化財。

○山都町目丸に平清盛の長男重盛を祀る小松神社（重盛の事を小松内大臣と呼んでいた）がある。渓谷に内大臣橋がかかる。

○同地清和に安徳天皇御陵あり。安徳天皇が逃れ17歳で崩御されたという伝説あり。

○宇土市立岡に安徳天皇御陵あり。

○あさざり町岡原北に平景清息女の墓あり。山奥に隠れた父景清を追って娘が来たが会うことなく命を絶つたという。母の墓もある。

○人吉市に平家の落人が作ったという木工品（きじ馬・花手箱）がある。代表的な熊本伝統工芸品。

○山鹿市に平家の落人を追ってきた源氏方が相良寺を焼き払った時に観音様がカズラに飛び移って難を逃れたという伝説がある。（アイラトビカズラ）

○山鹿市に弁慶ケ穴古墳がある。

○水俣市湯出に平家の落人が、鶴が湯あみするのを見て発見した「湯の鶴」温泉がある。

○天草市御所浦町には弁慶が住んでいた「弁慶山」、義経が船を隠していた「舟隠し」、那須与一がやってきた「与一が浦」など、多くの源平にまつわる伝説がある。

○天草市有明町には追われてきた平家の落人の身替りになったという観音様がある。新旧43体祀られ

ている。

天草の平家落人伝説

天草の落人伝説―源平合戦のその後―

令和二年十月三十一日から十二月二十七日にかけて、天草市立本渡歴史民俗資料館の秋期特別展、として開催された「天草の落人伝説展―源平合戦のその後―」があり、そのリーフレットをいただくことができた。^{注2}

前述の熊本県の平家伝説の内、天草市の二点と重なるが、五十点ある。参考までに掲示してみる。

大矢野・松島・姫戸・有明地区

1、手取山・・・義経・弁慶主従が頼朝から追われてきたときの伝説。

2、畠山神社・・・平家の武者畠山繁忠が芦北から落ちてきて永住。

3、塚宮大明神・・・平家落人の霊を祀った。

4、白嶽の鳴石・・・平家の落人が巨石の大穴に住んだ。

5、仏崎観音・・・平家落人景清の身替りに観音様が畠山重忠に斬られた。

6、藤乃観音・・・平家の落人の姫が討たれた。

7、坊主屋敷・・・平家落人の隠れ住んだ地。

8、平地区・・・源平合戦に敗れた平重盛が隠れ住んだ。

倉岳・龍ヶ岳地区

9、松ヶ鼻・・・平家の武将の娘を岬に葬った。

10、志賀大明神・・・六基の古い墓石がある。

11、大作山の伝説・・・一帯が平家の落人の末裔という。

12、蔵人の墓・・・逃れてきた源多田蔵人行綱が亡くなって祀った。

13、とんの墓・・・斬塞ぎの瀬戸で討死した平家の大将の墓。

14、斬塞ぎの瀬戸・・・壇ノ浦の合戦後に天草に落ちてきた平家の残党と追討軍との戦場。敗れた平家は横島に隠れ住んだ。

15、詰岩八天大明神・・・平家の落人の住まいの

詰所跡という。

16、荒平どんと藤の子どん・・・平家の落ち武者の荒平どんと、源氏の討伐隊の藤の子どんの伝説。矢追岩や、荒平どんと肥後の横手五郎の力比べの大石伝説もある。

17、宮崎石棺墓群・・・斬塞ぎの瀬戸で討死した平家の落人の墓。実際には3、4世紀ごろの墓。

18、袈裟ヶ浦・・・平家落人が住んでいた。

19、宮田の伝説・・・頼朝に追われた源義経・弁慶一行は宮田村に来て、隠れ住んだ。弁慶の文書・読み本・弁慶の末裔の家もある。

御所浦地区

20、与一ヶ浦・・・平家の落人を追ってきた那須与一が矢を射かけたという。

21、弁慶山・・・弁慶が住んでいたという。頂上には平家の落人が自害した伝説もある。

22、若宮様・蔵人行綱の墓・・・多田蔵人行綱の妻、又は行綱本人が祀ってあるという。また、斬塞ぎの瀬戸で討死した者を祀ったという。

23、頼朝よしのぶ越え：．．頼朝に追われた義経が逃げた道。

24、義経の船隠し：．．義経が隠れ住んだとも平家の落人が隠れ住んだという。

25、椈もみじの木集落：．．平家の落人、椈の冠者一党が隠れ住んだ。

26、松依姫碑：．．父多田蔵人行綱と天草に逃れてきたが源氏との船軍で父と共に亡くなり海に沈んだ。また、姫が天草に向かう途中、海に突き落とされて死んだとも。また、別の伝説もある。

栖本・下浦地区

27、ドブネの墓：．．平家の落人の墓という。

28、竜の口の平家の落人：．．源義経の家来佐藤継信等の子孫という地区。ほとんどが佐藤姓。但し、平家の落人という。

29、白戸十五社宮：．．平家の落人が四国の祖谷・宮崎を経て五家荘や栖本にながれついた。白戸には兄弟二人が来た。

30、平家場しよ：．．平家の落人が逃げて船をつけた場所。奥に入りこんだ地形のため、追っ手に発見され

なかつたという。

31、須森古墳：．．平家討伐の陰謀を平清盛に密告した源氏多田行綱が逃れて住んでいた住居跡。

源氏の追手に追われ、錦島、五色島、下浦血塚島、対岸の須森古墳へと逃れたという。

32、血塚島：．．平家の残党が追いつめられて全員討死した島。

楠浦・本町・五和・親和・苓北地区

33、半兵衛ヶ滝：．．平家の落人の半兵衛というものが滝のところまで逃げてきたが、逃げ場がなくなり滝から飛び降りたという。

34、方原ほうばる：．．平家の落人浦上清兵衛が逃れて住み着いた地。

35、大蛇の墓：．．平床は平家の落人が住み着いた。大蛇退治伝説あり。

37、長迫の若宮様：．．「やんぼしさん」(山伏)がいて、平家の落人ではと伝わる。何者かに殺害後守り神として祀る。

38、平家ん城：．．平家が天草に逃げて来て最後

の拠点としたところ。深い穴があり、島原の乱のとき百姓たちがこの穴から逃げてきたという。

39、大堂家の伝説：・壇ノ浦で敗れた平清盛の家臣、平行綱は豊後水道から土佐国足摺岬大堂海岸に

上陸。その後、日向国へ渡り、山を越え、八代に出て、天草大道村に着き、名を大堂氏とした。

数代後、長島（鹿児島県）へ移り、一部は天草の中田村に分かれ、中田の庄屋となった。

40、弁慶岩・・・巨石に弁慶がつけた手形がある。

片手で軽々と持ち上げたという。武者修行のために富岡に来たという。

41、平家落人の塚・・・平家の落人が亡くなったので塚を立てて祀った。

牛深・川浦地区

42、平家の落人三宅家の伝説・・・三宅家の先祖は平家の落人が海を渡って住み着いた。

43、下平と菅すげ・・・平家の落人が住んで居たところ。悪者集団に追われ、菅から下平、ついで長島に逃げたという。

44、弁慶の涙川・・・弁慶が五条の橋で牛若丸と斬り合いをして負けてから天草にやってきて、宮崎の石の上に腰かけて悔し涙を流し、河になつたという。

45、大島・・・平家の一党矢田吉左衛門とその妻が島にたどり着いて住んだ。現在は無人島。

46、福津・・・平家の落人が里浦湾の奥深くに逃げ、そこから福津に住み着いたという。山口五郎左衛門を先祖とする。

47、隠れ屋・・・平家の落人が隠れ住んだという。

48、姫之河内の木斛もっこく・・・壇ノ浦の戦い後、平家の落人の姫が隠れ住んだという。

49、亀浦の宝物・・・平家の落人が逃れて住んで居たが、源氏の追手が迫ってきたので四角の箱に宝物を入れて抱いたまま海底に沈んだという。

また、令和2年度本渡歴史民俗資料館 秋期特別展「論考 天草の落人伝説展に寄せて」（元 御所浦町史編纂審議会委員 鶴岡耕三郎）には、「御所浦の平家落人伝説」七か所を示されている。そこには先

のリーフレット以外に一地点説明があったので50として記して置く。

50、近衛様・・・壇ノ浦の合戦に敗れ、御所浦に落ちのびてきた安徳天皇の護衛をした武将たちの霊を祀る。御所浦当初の庄屋、森家がお守りしている。

おわりに

特に天草には源平合戦を中心とする落人伝説の他にも、河童伝説・キリスト教及び隠れキリシタン（潜伏キリシタン）伝説・天草合戦など伝説の宝庫といえる土地柄でもある。次世代に是非伝えたいものである。

以上、平家伝説を一例として挙げたが、古典は様々な形を変えて身近な所で見つかるのを待っている。基礎知識を知らなければ、道端に転がっている化石も、ただの岩石にしか見えない。学校教育とは、身近にある宝を見つける能力を身に付けることかもし

れない。

義経伝説の多くは東北・北陸・北海道に多くあり、特に義経主従の逃亡伝説が多い。是も平家の落人伝説の一種とみられるが、九州においても義経主従の落人伝説が見受けられるのはいかに義経の人氣が全国的に広がりを見せているかが窺えられて興味深い。古くから様々な義経関係の文芸が底流にあることは指摘されているが^{注3}、特に熊本がこれほどの伝説を持つ理由を今後も詰めていきたい。

目下のところ、浄瑠璃・歌舞伎・能楽世界での『平家物語』を代表とする古典作品に触れる機会はメディアの発達で多くあるものの、一方で、子どもたちの他の興味あふれるものに埋没している感がある。

また、パソコンやスマホなどで調べればわかる便利な世の中になったが調べるきっかけが子どもたちにはないのである。義経や弁慶を含む平家落人伝説の伝承は一方で教員を含む大人たちが伝授していかなければならないと思う。

注

1、松永伍一『平家伝説』中公新書

武田昌憲「『平家物語』国語教育の一側面―（副題省略）」『尚綱語文』4号〜8号、

平成二十七年〜平成三十一年

「平家遺産をめぐる旅」（パンフレット・熊本県観光連盟）

『平家物語大事典』（東京書籍）

H P ふるさと寺子屋 「熊本の平家伝承」講師・郷土史家 荒木栄司 など

2、リーフレットについて、天草市立本渡歴史民俗資料館の本多康二様には大変お世話になりました。お礼申し上げます。

なお、リーフレットとは別に「五家荘の伝説」の説明文もいただきました。

肥後国の山奥の、平家の里で知られる五家荘が貞享二年（一六八五）に天草富岡代官所の管轄になり、天草との交流が始まったことが記されています。

3、島津久基『義経伝説と文学』昭和十年、大学堂

書店など、多くの義経伝承記事。